

学 報

Kobe College Bulletin

2025年 神戸女学院
創立150周年

150th
Bridging Generations

ISSN0389-164X

NO. 197

2023. 3. 15
神戸女学院
学報委員会

デフォレスト先生の召天50周年を覚えて

理事長・院長 飯 謙

2023年はタルカット先生とダッドレー先生の来日、そしてお二人による神戸・花隈の私塾開設から150周年、岡田山移転90周年、新制高等学部と大学設置認可75周年、人間科学部設置30周年など、いくつも記念すべき節目の年です。それらの中で改めて想い起こすべきは、本学院「中興の祖」と評されるシャーロット・B. デフォレスト先生の召天50周年でしょう。先生は1973年7月2日に米国カリフォルニア州クレアモントで天に召されました。94歳でいらっしゃいました。拙稿ではデフォレスト先生のご生涯を回顧し、先生から現代の私たちに向けられたメッセージを考えたいと思います。

先生は1879年2月23日、大阪の川口居留地で誕生されました。ご両親のエリザベスとジョンはアメリカンボードから派遣された宣教師で、1874年11月に同志社の創立者・新島襄と同じ船で来日されました。そのつながりもあり、デフォレスト先生は誕生の年の5月に、大阪教会で新島から幼児洗礼を受けます。7歳の時に両親の転任に伴って仙台に移り、15歳で父の休暇に合わせて欧州経由で米国に戻られます。ボストン郊外のニュートン・ハイスクールから東部の名門スミス・カレッジに入学し、1901年に卒業。いくつかの研鑽を経て、1903年にアメリカンボードの宣教師として来日、1905年春に神戸女学院に着任されました。

当時、本学院の運営は文部省が1899年に発した訓令第12号のために若干混乱のうちにありましたが、先生はソール院長と協力して当時のカレッジ部門である高等科（3年制）のリベラルアーツ課程を4年制へと整備するため尽力されます。それが奏功し、1909年には当時の女性高等教育における最高学府と



なる専門学校令による4年制の専門部が認可されました。先生はその間、1907年にスミスカレッジから日本詩歌の研究で修士号を受領して教育者・研究者としての地歩を固められます。

学修環境改善への努力は1915年の院長就任後も続き、1918年に私立学校も大学と称することが許可される「大学令」が公布されると、周囲の慎重論を押し切って同年11月に専門部を大学部とする申請を用意し、翌1919年2月に認可を受け、4月に「大学部」設置を果たします。これは神戸女学院の長年にわたる堅実な教育が評価されたからですが、米国の一部でささやかれていた「Kobe College は日本の文部省レベルで大学（a college）と認められていない」という批判的な風評への対応でもあります。これによって神戸女学院は名実ともに“College”となりました。先生はその後も大望実現の手を休めることな

く、キャンパス移転に着手されます。

デフォレスト先生が院長に就任された1910年代中頃、神戸・山本通の校地の拡張は限界に達していました。当時の神戸中心部の地価はシカゴの「高級住宅地」より高額であったとのことで、アメリカンボードの支援も及びかねる状況でした。1920年、先生はアメリカンボード中部女性伝道会会長(1871-1906)や本学院とも関わり深いマウントホリヨーク大学同窓会初代会長(1872-1899)などを務めたシカゴの会衆派教会牧師夫人エミリー・ホワイト・スミス(1834-1929)に相談します。氏は岡田山の講堂にその名が冠され、講堂横の廊下には肖像画もあって、現代の私たちも親しく思う方です。山本通への訪問経験もあって、置かれた事情と、男を範例とするのではなく、女性として世に仕える女性を送り出すとの使命を速やかに解し、即座に募金組織の設立を申し出てくれました。これが今日のKCC-JEEです(Kobe College Corporation-Japan Education Exchange)。KCCはいくつもの困難を越えて1929年までに目標を達成します。この時、米国の会衆派教会を中心とする婦人方が遠い東洋に住む、具体的な知り合いでもない他者に献金を献げてくれたことは、私たちの来し方のモデルとなります。これにより本学院の移転事業が本格化しました。

神戸女学院は新キャンパスの設計者にウイリアム・メレル・ヴォーリズ(1880-1964)を選び、デフォレスト先生と共同して作業を進めるよう要請しました。その後は皆様もご承知のように、リベラルアーツを体現する学舎——図書館を中心に人文科学、社会科学、自然科学、そして芸術の校舎(学術)、それに向かい合うかたちで講堂とチャペル(仕える精神)、その向こうに体育施設と日常生活の場(実践)が配置——が建てられます。これはヴォーリズの独創的な発案というよりも、デフォレスト先生の構想によると伝えられます。

この移転事業で忘れてはならないのは「記念歌」“Beauty Becomes a College”です(※)3ページ参照。原詩は先生が1933年に神戸女学院同窓会の会誌『めぐみ』第22号に寄稿されたものでした。神戸女学院では2000年に創立125周年を覚えて音楽学部の作曲学教授・澤内崇先生(現・名誉教授)にお願いして曲をつけていただき、今日も歌い継いでいます。

この詩の創作について、私は、デフォレスト先生が何もない岡田山に建物が生まれていく、その光景

を目前にしつつ、このキャンパスが与えられた経緯を思い浮かべられた折りのものではないかと想像するのです。同窓生からの献げもの、KCCの誕生と苦悩、竹中藤右衛門(1877-1965)の厚意、建築に従事する人々の喜びに満ちた働き、ヴォーリズの熱情。携わる者の中に客人はおらず、全ての人が当事者としてこの営為に加わりました。作品の冒頭に置かれた“Beauty”には、もちろん岡田山の視覚的な美しさという意味合いがあったでしょうが、それ以上に、この事業に献身的に関わった一人一人の思いへの共感があることに心を寄せたいと思うのです。それらが“a College”へと結実した、と。これについてはその後に記された“steel and stone”, “tower and arch and pillar”といった素材や形状の多様さの暗示、あるいは“Fruit of bulb and corn”, “Hearts of age and youth”といった広い世代を示唆する表現から、広範な支援者の存在を読み取れます。さらに記念歌の後半に記される“Warm with the love of serving”はこれらと連動して、その方々が抱いた他者に仕える生き方につながります。

とはいえ、これらのことばを単なる支援者に関する報告と解するべきはないでしょう。これは私たちに示された歩みの指標です。まさにデフォレスト先生が半生をささげて心血を注がれた、教育システムの充実、財的な基盤の整備、キャンパスの構築は、「愛神愛隣」に生きる人を世界に送り出すとの、私たちの教育の目標に結びついてまいります。

いま神戸女学院では、中学部のクラス人数の適正化、高等学部におけるICT教育の導入、大学の学部再編、法人では職務組織の検討と理学館西側地域再整備など、新たな試みを実施・計画しています。しかしそれらは改変のための改変ではありません。「自分のためにではなく(non sibi) (他者のために)とのスピリットを懐く人を次世代に向けて送り出すことに向かいます。デフォレスト先生の召天50周年を始め、多くの事柄の節目の年に、私たちからの“Bridging Generaations”を心に刻みたく存じます。

2月28日(火)、高等学部卒業生の米田あゆさんが、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙飛行士選抜試験に合格されたことが報道されました。米田さんのご活躍をお祈りいたします。

Beauty Becomes a College

Beauty becomes a college,
Glory befits a soul.
God-made and man-made
Grows the radiant whole.

Beauty becomes a college.
Mold in steel and stone
Tower and arch and pillar
Wisdom acclaim her own.

Beauty becomes a college,
Fruit of bulb and cone,
Rocks, ravines, and vistas,
So is her garden grown.

Beauty becomes a college,
Hearts of age and youth
Warm with the love of serving
Eyes alight with truth.

Beauty becomes a college.
Glory befits a soul.
God-made and man-made,
Grows the radiant whole.

C. B. DeForest (1933年)

KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のため設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体(NPO)です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のためにさまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称KCC-JEEとなりました。今回は、新しくKCC-JEE会長に就任されました大東由季氏が寄稿してくださいました。]

KCC-JEE 会長就任にあたり

大東 由季 (109)



約150年前、アメリカでも、独身女性が宣教地に行くというのはまだ珍しかったと聞いています。そのような時代に、先駆的な独身女性の宣教師たちによって、神戸女学院は始まりました。開国後間もない日本ではまだ女子の教育もそれほど一般的ではなかった

頃ですが、生徒数も増え、約50年後には、より大きな校舎、敷地が必要となりました。岡田山キャンパス購入を可能にするために、アメリカで寄付集めをして、

支援団体となったのが、Kobe College Corporationです。以降、KCCは、金銭的支援以外にもいろいろな形で、神戸女学院の支援をしてきています。

中高部に在籍中、幾度もKCCに大変お世話になっていると聞いていました。アメリカの大学に進学してすぐにKCCに繋がり、神戸女学院のために活動してくださっている理事やメンバーの皆さんに刺激を受け、卒業生の私も何かしたいと思うようになりました。2013年よりKCC-JEEの理事をしていますが、神戸女学院創立150周年を祝おうとしている時に、KC卒業生として初の会長役を務めることになり、光栄に思っています。

開校当初より長年、時代の先を行く教育で社会に貢献してきた学校であったように、これからも、ますます今の、そしてこれからの日本社会に貢献する学校であるよう、アメリカから引き続き支援を続けられるよう願っています。

KCC-JEEには、神戸女学院のために献身的に活動をしてくださっている方々が大勢おられます。その中のお1人、杉浦香様が、今年1月1日に天に召されました。中高部の卒業生で、長年シカゴに在住。その間、多くの卒業生、留学中の学生のお世話をされました。またKCC-JEEの理事メンバーとして、ご夫婦ともども神戸女学院のためにご尽力されました。1月21日に、所属されていたシカゴの教会で葬儀が行われ在米のご子息家族を含め200名ほどが参列しました。3月11日にはKCC-JEEがシカゴにて香様を偲び、感謝する会を予定しています。

これからも、神戸女学院と、KCC-JEEの共同の業が進展することをお祈りいたします。

2023年度年間標語

喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。
(ローマ 12:15)

学院チャプレン 中野 敬一

シンプルでわかりやすい聖句です。内容も理解しやすく、多くの人々から共感を得られてきた言葉です。自分の喜びを共に喜んでくれる人がいたことで喜びが増し加わった、あるいは、悲しみに寄り添ってくれた人がいて大いに慰められた、といった言葉もしばしば耳にすることでしょう。

そのような体験をされた人が、今度は自分が他者の喜びや悲しみに寄り添い、共に喜び、共に泣くという方向へ自身を向けられるのは素晴らしいことだと思います。人が自分本位に終始するとき、「愛」はその力を失います。逆に隣人と積極的に関わろうとする時に「愛」は輝きを増します。そして、その関わりを自分の近親者のみでなく、さらに広い意味での「隣人」に向けることを聖書は促しています。愛のあるところに神は祝福を与えられます。その愛が世に満ちあふれる時こそが、主イエスの説かれた「神の国」実現の時となるのです。

今年は神戸女学院の創立者イライザ・タルカット、ジュリア・ダッドレーの両宣教師が来日された1873年から数えて150年となります。見たこともない国の、全く知らない隣人と出会うためにアメリカを発ち、未来を生きる人のために心血を注いでくださいました。隣人の喜びを自分の喜びとし、隣人の悲しみを自分の悲しみとしてくださった先達の尊い姿を私たちはあらためて想起する必要があります。

与えられた恵みを自らのうちに留め置くだけでは愛の輝きが閉じ込められ、やがてその光が失われることにもなります。神戸女学院は創立以来、聖書の教えに耳を傾け、その教えを体現する人物を世に送り出すという大切な使命が与えられてきました。教育の根幹にある「愛神愛隣」の理念と、それを具体的に表している今年度の聖句を心に留めながら、この教育を学院でさらに豊かに展開できるよう、皆様と祈りを合わせたく存じます。

クリスマス報告

2022年11月28日夕刻に点灯式を挙りました。点灯式とはイエス・キリストの降誕を待ち望む、アドベントの訪れを告げる行事です。中高部チャプレンの先生にお話しいただき、有志学生・生徒、教職員の賛美のもと、講堂横のクリスマスツリーが点灯されました。

〈大学〉

11月28日のチャペルアワーはアドベント特別礼拝とし、日本基督教団神戸教会牧師の大塚忍牧師をお招きして奨励をしていただきました。そして、クリスマス前の一週間は、各学科によるチャペルアワーをまもることができました。演奏や合唱、クリスマスのお話など、それぞれ学科の特徴があらわれたチャペルアワーとなりました。

クリスマス礼拝当日である12月23日は授業の時間割を変更し、正午から大学クリスマス礼拝をまもりました。今年度は大学チャプレンの大澤香先生より「すべてのものを照らす光」と題してメッセージをいただきました。音楽学部による演奏・合唱、聖歌隊ハンドベルクワイアによるご奉仕をしていただき、学生・教職員の皆様とともにクリスマスの喜びを分かち合うことができました。

〈神戸女学院 クリスマス礼拝〉

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、昨年度に引き続き一般公開は中止としましたが、3年ぶりに中高部・大学合同の演奏・合唱という形での学院クリスマス礼拝をまもることができました。今年度は中高部チャプレンの先生より「喜びのおとずれ」と題してメッセージをいただきました。少人数の定員制ではありましたが、中高部生徒・保護者の皆様、大学生、教職員をお迎えし、暗闇の中に灯る壇上のロウソクの光に、キリストの生涯と福音を感じるひと時となりました。



講堂ロビーのクリスマスツリー

学院全体が大切にまもっているこのクリスマス礼拝は、神戸女学院がキリスト教主義学校であることを強く伝えられる大きな機会であり、共にひとつの祈りの時を持つことができる大切な場です。次年度こそは従来どおり皆で一緒に過ごすことができるよう祈るものです。学生ボランティアには、礼拝の舞台照明をはじめ会場セティングから撤収までサポートしていただき、教職員の皆様にも多くのお力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。

司式：中野 敬一 奨励：安森 智司
演奏：神戸女学院大学音楽学部、高等学部・中学部
指揮：松浦 修（音楽学部）・中高部教諭
奏楽：片桐 聖子

〈 プレゼント報告 〉

今年も、大阪水上隣保館と神戸真生塾、福島県にある社会福祉法人 牧人会白河めぐみ学園と白河こひつじ学園へプレゼントを郵送にてお届けすることができました。ご協力いただいたすべての方々に感謝と共にご報告申し上げます。

〈 クリスマス献金報告 〉

中高部	36,194円
大学クリスマス礼拝	12,730円
学院クリスマス礼拝	76,485円
学生・教職員 献金箱	60,176円
合 計	185,585円

下記の施設、団体へ献金いたしました。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン 96,000円
学校法人アジア学院、アシユラムセンター、認定NPO 法人抱樸、釜ヶ崎いこい食堂 各10,000円
曙教会（長島愛生園）、日本キリスト教海外医療協力会、大阪水上隣保館 各5,000円
社会福祉法人光朔会オリンピア 4,585円
インド三浦後援会、日本基督教団部落解放センター、社会福祉法人イエス団 真愛ホーム、社会福祉法人あゆみ学園、日本基督教団兵庫教区長田活動センター、ペシヤワール会、社会福祉法人関西盲人ホーム、日本キリスト教社会事業同盟、国境なき医師団、学校法人日本聾話学校 各3,000円

皆様、ありがとうございました。
(チャブレン室)

〈 クリスマス礼拝報告（中高部） 〉

2022年12月19日にクリスマス礼拝をささげました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、J合同礼拝とS合同礼拝という二部制の形で、時間を分けてクリスマス礼拝をささげました。

ポインセチアやリースが飾り付けられた美しい講堂で、キャンドルに灯された火を見つめながら、クリスマスの喜びを共に分かち合う時を過ごすことができました。

J、Sそれぞれのコーラス部による音楽奉仕、またS合同礼拝ではS2音楽選択者のハンドベルの音楽奉仕がささげられました。そして、会衆賛美をもって、共にクリスマスの喜びを祝い、賛美する恵みに与ることができました。

この礼拝には、西成教会の米加田周子牧師をお迎えし、「隣人」というテーマでクリスマスのメッセージを語っていただきました。大阪釜ヶ崎いこい食堂を立ち上げられた金井愛明牧師が、「隣人」という言葉の意味を、「隣」という字に思いを込めて、働きの業を重ねてこられた事をお話しくいただきました。

中高部では、コロナ前には、夏と冬の年2回、リベラルアーツ・プログラムとしていこい食堂での炊き出しの奉仕と学びの時を、米加田周子牧師の指導のもとで行ってきました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、ここ数年は米の献金や収穫感謝礼拝で集めた野菜をお送りする形で奉仕活動を続けています。また今年も、S3生物選択の受講者が授業の学びの中で作った干し柿をお送りするなど、コロナ禍にあっても学びと奉仕の業を深めています。今回、米加田先生が、釜ヶ崎での経験を交えてお話しくださったことで、いこい食堂の働きの業と、私たちの学びの意味を改めて確認する恵みの時となりました。

コロナ禍にあって、新しい形でのクリスマス礼拝をまもり、喜びと賛美の時を分かち合うことができましたことを、報告いたします。

なお、クリスマス礼拝のプログラムデザインは、高等学部1年生の生徒の作品が、全校生徒の投票によって選ばれました。作品は、葆光館1階の廊下に表示されています。

(中高部チャブレン)

テレビドラマ「名建築で昼食を」

2022年9月、テレビ大阪・テレビ東京系のドラマ「名建築で昼食を 大阪編」の舞台として本学院ヴォーリズ建築群が紹介されました。同作は、カフェ開業を夢見る主人公のOLと、「乙女建築」巡りを趣味とする建築模型士が実在する名建築を巡る内容で、東京都内および神奈川県内の歴史的建築物を中心に紹介されてきましたが、好評を受け大阪編が制作されることとなり、その舞台の一つに選ばれたものです。

池田エライザさん演じる“春野 藤”と田口トモロヲさん演じる“植草 千明”が正門や講堂、ソールチャペル、図書館本館を見学した後、新社交館食堂で岡田山弁当とガバオライスの昼食を楽しむシーンが演じられました。なお、放映後には食堂のスペシャルメニューとして学生たちにも味わっていただきました。

深夜番組ではありますが、放映直後から多くの反響があり、コロナ禍で外部からお客様の入構を制限していた中でも、興味関心を持ち続けていただけたことに感謝しております。

重要文化財に指定されたヴォーリズ建築群という他にない貴重な財産を活用すべく、今後もテレビや映画などのロケには積極的に協力し、本学の知名度向上に努めてまいりたいと思います。

(入学センター・広報室課長)



“藤”が食べたガバオライス（上）と
“千明”が食べた岡田山弁当（下）

小林季子記念東京寄宿舍 クローバーハウス閉所式

2007年10月に天に召された同窓生の小林季子様（高女部49回）から遺贈されたお住まいに、改修を施した上、東京寄宿舍として2008年7月に開設されたクローバーハウス（東京都渋谷区）は、以来15年にわたり小林様の母校と後輩に寄せる温かい思いを受け止めて、有志により結成された「クローバーハウス友の会」の歴代世話人様に寄宿舍として必要な管理のご奉仕いただくことで、四季折々の花々に彩られた庭園と共に美しく維持されてまいりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により学生の利用が滞る中、築年数が経つ木造建築である上に地盤沈下も生じていることなどから、今年度末を以って役目を終えることとなりました。1月21日に執り行われた同所の閉所式には、立ち上げに尽力された長崎恵子様を始めとした友の会の皆様、今年度の世話人の渡部史代表と皆様、めぐみ会の中山真美子会長、東京支部長の島崎祐子様に加え、お庭と建物の維持管理でお世話になりました小野賢洋様と小坂正典様にもご臨席を賜り、中野学長・チャプレンの司式、飯院長の式辞をもって礼拝形式で守られました。二部の茶話会は総務部長（筆者）の司会で、皆様から貴重な思い出話を伺うことができ、惜別の思いを共にしながら母校を想うひとときとなりました。小林様のご遺志とクローバーハウス友の会の活動の歴史につきましては、岡田山にて永久に顕彰することとなります。全て整いました折に改めてご報告申し上げます。

(総務部長)



閉所式後の記念写真：加藤経理部長撮影

史料室の窓(59)

学生寮の青春

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

神戸女学院は寄宿学校として創立され、現在に至るまで学内に寄宿舎を有しています。古い大学学修便覧(1962年)の説明によると「本学における寄宿舎は、単なる下宿またはその延長としての寄宿舎ではない。それは本大学教育の古い伝統でありその重要な教育機関の一部である。ここでは諸々の課外活動が営まれ、特に生活過程を通じての学習と団体生活による民主的精神の涵養が、基督教的教養の体得とともに強調されている。〔略〕本大学では寄宿舎生活を本学教育の主流に置いている。〔略〕神戸女学院はアメリカのリベラルアーツ女子高等教育機関をモデルにしており、リベラルアーツ・カレッジにとって寄宿生活は必須条件でした。

6,434名の犠牲者を出した阪神淡路大震災から2023年で28年になります。本学も被災し、寄宿舎(大学寮・北寮、中高部寮・東寮)が取り壊されました。大学寮は再建されましたが、東寮は廃寮となり思い出の中にしか存在しなくなりました。寮は生活の場でもありましたから詳しい記録は残っていませんが、東寮(以下寮)の記憶をたどってみたいと思います。

1998年3月に閉寮した寮の正式名称はウォーレン寮といい、1933年から65年間で約600名の寮生がここから巣立ちました。舎監だった先生によると寮の規則は開寮当時からほとんど変わっていません。消灯時間、塾通いのための外出時間の変更くらいしかなかったとか。1977年の規定では、起床は6:30、就床22:30、毎日曜日を聖日として守り、やむを得ない場合以外は「教会に出席することを本義とする」と定められています。

寮の朝はとても忙しいものでした。普段は起床チャイムで起きて朝からトイレまで掃除します。掃除の仕方は寮の伝統でした。昔流で新聞紙を濡らして床に撒き、それを箒で掃きます。床はピカピカ、部屋の隅々、ガラスもピカピカにします。学年末の大掃除の時にはもっと徹底的に掃除するのでドアノブまで磨き上げたとか。食事も当番制で伝統的なやり方がありました。一部屋に一人の当番は台所に行き食事の準備を手伝い、食後は洗い物をして流しを水滴一つ残さずピカピカに拭き上げます。日曜日の朝は教会に行く以外の外出は禁止です。皆だんだん教会に行かなくなりましたが、この規則は最後まで残りました。日曜日と水曜日に夕拝があり、水曜日には先生を呼んでスピーチをしてもらいます。



東寮 (Warren Dormitory)

誰を呼びたいか投票すると人気のある先生ばかりになってしまったこともあったとか。寮では上級生が下級生を指導して行儀作法や伝統的な掃除等を傳承し、伝統をつないでいきました。

そんな生徒たちを見て舎監の先生は余りに型にはまりすぎて窮屈で可哀想だと感じたこともあったそうです。しかし、寮生活は厳しいばかりではありませんでした。毎月お誕生日パーティがあり、いつもよりちょっとご馳走が出ました。他にもクリスマスは勿論、ハロウィンには仮装パーティがあって、アメリカ風にケンウッド館(当時外国人住宅でした)に行ってお菓子をもらって英語でゲームをしたりして帰ってきます。日本の伝統行事、お雛様や七夕にもパーティをしました。パーティやゲームには伝統的に決まったものがあつたようです。寮の前に校内で一番甘い実がなる枇杷の木があり、寮の特権でそれを皆で分けて食べました。筍掘りもしました。静粛の時間(19:00~23:00)という自由時間に台所でいろんなお菓子作りもできました。

先生曰く、教育寮として特別なことをしたわけではない、人を思いやる人になる、人に仕えるという学校の伝統の精神を伝えようとした、と。親元を離れ心細い日々、それを夕拝が癒してくれたという寮生がいます。友人と一緒に仕事や勉強をして、ちょっと我慢しながらもいろんなことを覚えた日々。東寮の扉を開けると神戸女学院の歴史を感じさせられる独特の香りがしたそうです。人生の一番大切な時期を共に生活した年齢の違う生徒たち、そして寮の建物もまた寮生たちの心と身体を育ててくれたのです。

<事務室探訪>

「コロナ禍を経て」教務課

教務課は授業、時間割、履修登録、成績、教職課程などに関する業務を行っています。学修便覧、学年暦や時間割の作成、シラバスの管理、教室の配当、履修登録、成績管理や成績に関わる各種証明書の交付などです。卒業生の卒業証明書や成績証明書の交付も行っています。

コロナ禍前、新学期は登録関連書類の配布から始まり、カウンターでは学生の履修やカリキュラムに関する質問に学修便覧を広げながら説明を行っていました。ところが、2020年度の新学期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校は登校禁止となり、遠隔授業が導入されました。履修登録関連書類をWebから入手できるように整え、カウンターで対応していた履修やカリキュラムに関する様々な問い合わせはフォームを作成しWeb経由で行いました。登録関連日程の変更を行い、授業開始前に履修登録を確定させ、遠隔で授業が受講できるよう様々な教職員の協力のもと、5月初旬からの遠隔授業に繋がりました。授業は、2020年度は遠隔中心で行われ、2021年度は感染拡大の状況により都度形態が変更となりました。少し落ち着いた2022年度は年間を通して同じ形態で行うことができ、2023年度からは、原則対面で行われます。授業の実施に関しては、各部署と協力して、円滑に運ぶことを目指しています。これからも学生の皆さんのよりよい学修のために努めていきます。

(教務課長)



学修便覧

中高部事務室のご紹介

中高部はキャンパスの北東に位置し、中学部3学年、高等学部3学年の計6学年の約850名の生徒が在籍しております。その事務を担う中高部事務室(図書室、ITセンター、各教科準備室を含む)は、事務長、専任事務職員4名、アルバイト職員3名、派遣職員4名(2023年1月現在)で構成されており、教務補助から始まり、生徒活動支援、納付金や奨学金、配付物の準備、機械の整備、備品チェックなど、その業務も多岐に渡り、先生方と随時協力しながら業務を行っています。多感な時期の女子生徒が6年間同じメンバーで限られた敷地内にいると、思いもかけないことがたくさん起こります。先生方の指示と的確な判断のもと、一つ一つを一律に対応するのではなく個々の生徒に応じた対応をするため、時間と労力がかかりますが、その細やかな対応に保護者も生徒も安心して学校に来られているのではないかと思います。事務室として表立って、「この仕事です」というものはありません。しかし、見えない所でのサポート全般を行うことから、本当の「縁の下の力持ち」と言えるのではないのでしょうか。

生徒と教員との気持ちの近さは、中高部の特色の一つともいえますが、生徒は職員にも気持ちを近づけてくれており、廊下ですれ違った際の挨拶を始め、教室の備品交換や簡易修繕に行くと自らお手伝いをしてくれます。小さな喜びですが、そこに『女学院生』らしさを感じ、嬉しくなることがあります。彼女たちが充実した学校生活を送り、豊かな思い出を胸に卒業できるように、事務室としてサポートしていきたいと思います。

(中高部事務室)



キャンパス見学会にて配付するグッズ

大学報告

大学改革状況について

前号でもお知らせしましたとおり、大学では2024年度から新たな学部学科を設置構想中であり、現在、諸手続きを進めているところです。新学部が開設されると2024年度における大学の学部学科は次のような構成になります。

国際学部 英語学科
グローバル・スタディーズ学科

文学部 総合文化学科

音楽学部 音楽学科

心理学部 心理学科

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科

※同年度新入生より新学部所属となります。在学生は卒業まで現在の学科所属となり、カリキュラムに変更はありません。

現在の3学部5学科から5学部6学科へ。即ち国際学部以外は1学部1学科の体制となりますが、これにより各学部学科の独自性が際立つことを期待しています。また新設以外の既存の学部学科についても、これを機会に新たな魅力を提示できるよう検討を重ねているところですが、その一つ、音楽学部音楽学科では、2024年度に向けて次のような改革を予定しています。従来の「器楽」、「声楽」、「ミュージック・クリエイション」の3専攻を再編し「音楽表現専攻」へと一本化。加えて、音楽を通じたキャリア形成を追求する「音楽キャリアデザイン専攻」を設置します。同時に「舞踊専攻」については2024年度以降の学生募集を停止することとなりました。

新学部学科関連の情報は、随時特設サイトにて発信しております。ぜひご覧ください。

(<https://newfaculty.kobe-c.ac.jp/>)

また、2月から3月にかけて阪急電鉄および神戸市営地下鉄に車内広告掲出も行いました。

(大学事務長)



車内広告

音楽学部の新専攻開設について

音楽学科は2006年4月以降、器楽、声楽、ミュージック・クリエイション（当時は作曲）、舞踊の4専攻からなりましたが、2024年4月入学年次より、従来の器楽、声楽、ミュージック・クリエイション（創作）分野を「音楽表現専攻」に再編して内容を更に充実させ、それに加えて、音楽を通じたキャリア形成を追求する「音楽キャリアデザイン専攻」を新設し、1学科2専攻体制として生まれ変わろうとしています。あわせて、両専攻にまたがり、教育の伝統を先端的なキャリア教育で充実させた新カリキュラムが始動します。本学の「ミッションステートメント」と「教育の3つの柱」を大切にしつつ、より専門性を高め、キャリアに繋がる教育体制を整えます。

新設する「音楽キャリアデザイン専攻」は、音楽と社会の接点で音楽の力を活用し、音楽を起点に新たな価値を創造する人材の育成を目指します。これは、地域や企業で音楽が担う文化的活動、教育現場における音楽指導、高齢化社会に向けて需要が高まる生涯教育等の現場において、音楽で他者の生活を豊かなものへと導き、地域社会の発展に貢献することのできる人材を育てることです。そのために、音楽を社会で活用する応用力、音楽に関する幅広い専門的知識と技能、企画力と創造力、実行力、人間力を備えた共感性の高い人格を養う教育課程を編成します。

音楽学科の新たな発展的改革に是非ご注目ください。

（音楽学部事務長）

2022年度 公認心理師試験の合格率が 3年連続で100%

2022年度大学院人間科学研究科臨床心理学専攻修了生が「公認心理師」試験に全員合格しました！2020年度、2021年度に続き、3年連続の快挙です。同試験の全国平均合格率（厚労省発表）は、48.3%（2022年度）、58.9%（2021年度）、53.4%（2020年度）であり、連続の100%は素晴らしい結果です。

公認心理師とは、保健医療、福祉、教育、司法、産業等の分野で質の高い心理支援を提供するため、2017年に制定された心理専門職初の国家資格です。本学では2018年より同資格のカリキュラムを学部と大学院で開始させました。学部4年、大学院2年の総計6年がかりで受験資格が得られる資格です。特に大学院教育は、講義科目の履修だけでなく、附属心理相談室での相談事例担当と、医療をはじめとする多領域での臨床現場実習を併せた450時間以上の実習を行い、修士論文の研究も行うという非常に多忙なスケジュールで構成されます。本学では、学内外の実習において、少人数教育に根差した、きめ細やかな臨床教育を行っています。資格試験においても本学で身に付けた力を発揮してくれたことと幸いです。

これまでの修了生たちは、多様な領域（総合病院・心療内科、地方公務員、児童養護施設、スクールカウンセラー、大学学生相談室、自衛隊など）で、心理専門職として活躍しています。今年度の修了生たちは、2023年4月より、福祉や教育等の現場で心理職として就職予定ですが、本学で培った力を礎に、今後心理専門職としてステップアップしていかれることを応援しています。

（人間科学研究科 HP）

https://h.kobe-c.ac.jp/g/pub_psychol/

（大学院人間科学研究科附属心理相談室室長
心理・行動科学科教授 須藤 春佳）



2022年度受験した修了生たち

アサンプション大学学生との合同授業 (英文 奥村ゼミ)

コロナ禍による影響が続く中、留学に行く学生や学内での国際交流活動に参加できる留学生がまだ少数である。英文学科の奥村ゼミでは、海外に行かなくても外国の大学生と有意義な交流ができるような様々な企画を進めている。

その一環として、3年生のゼミでは10月5日、14日に本学の協定校であるフィリピンのアサンプション大学とオンラインによる合同授業を実施した。本ゼミの提案を Lea Samin 教授が快諾してくださって実現した授業である。

1日目は、アサンプション大学の学生によるフィリピンの4つの社会問題（環境、犯罪、貧困、政治）についての発表を聴き、奥村ゼミの学生が質問をする形で進めた。丁寧に準備された資料と詳細な内容の発表から、多くの学びがあった。情熱を持って発表されるフィリピン人の大学生を見て大きな刺激を受けたようである。

2日目は、お互いをよりよく知り合うような楽しい企画を考案・実施。オンライン掲示板アプリの Padlet を使って 'Two Truths and a Lie' というゲームをしながら自己紹介した後、グループに分かれて、日本とフィリピンの若者言葉や最近のトレンドを共有しながら盛り上がった。

それぞれの国にいながらにして、海外の学生と交流しながら学ぶことができ、楽しい時間となった。現在、アサンプション大学に留学中の英文学科3年生2名もフィリピンでこの合同授業を受講しており、久しぶりにオンラインで同級生に再会でき、嬉しそうだった。

(英文学科准教授 奥村 キャサリン)



合同授業の様子

音楽学部ウインドオーケストラ 2枚目のCDレコーディング

「神戸女学院大学音楽学部は吹奏楽に力を入れているのですね」「作品開発にも積極的に取り組んでいてアメリカの名門大学のようなですね」——2021年春にリリースされた第1弾のCDを聴いた、全国各地の中学・高校の先生方と吹奏楽ファンから嬉しい言葉が届いた。インターネットショップや楽器店などで自分たちのCDを目にした学生たちの達成感はもちろん、演奏会でお会いした彼女らのご家族からの反響も肌で感じられた。

私が本学に着任した2020年度は“コロナ禍中において何ができるか”が至上命題だった。講師陣と協議を重ね、後期からウインドオーケストラ（吹奏楽）の授業でCDレコーディングを開始し、その成果が得られたことは一つの解だと言えるだろう。レコーディングには研ぎ澄まされた集中力と長時間かけて取り組む忍耐力が不可欠だ。一瞬に勝負をかける演奏会とは違った困難が強いられるが、結果として技術力と表現力の大きな成長を実感できる。

2022年度も学生たちの更なる飛躍を信じ第2弾のCD制作に踏み切った。ヨーロッパの著名な作曲家陣の新作を収録した前作とは趣向を変え、今作は日本で活躍する作曲家たちの新作を中心に収録している。東京から作曲家たちが応援に駆けつけ、直に作品の意図やエピソードを伺えたことは学生たちにとって貴重な経験となり迫真の熱演に繋がった。

この春に全国一斉発売を予定している第2弾の収録が無事に終わられたことをご報告すると共に、全身全霊で向かい合った学生たちへ心より拍手を贈りたい。

(音楽学科専任講師 八木澤 教司)



収録を終えて達成感に満ちた学生と講師陣

Field Study 沖縄

「Field Study」は、英文学科メジャー科目として、また他学科の学生も履修できるオープン科目として、2014年度より提供しており、フィールドワークの手法により、教室を出て現地で学ぶ、英語で学ぶという形で行います。知識を深めることはもちろん、基本のグループでの行動を通して刺激し合い、企画力、観察力、分析力、研究力、コミュニケーション能力、行動力やリーダーシップなど、様々なスキルを身につけます。

コロナ禍で不開講が続きましたが、2022年度は3年ぶりのField Studyを沖縄で実施しました。14名の履修生は事前学習のために6月の土曜日に毎週集まり、沖縄の歴史と文化、米軍基地の現状、人々の思いなどを講義や映像で学びました。そして9月11日に沖縄に出発。心配された台風の影響もほとんどなく、14日までの日程で首里城、普天間飛行場と嘉手納飛行場の米軍基地、沖縄国際大学、平和祈念公園などを訪問し、現地の方からお話を聴き、話し合い、沖縄の歴史、文化、直面する様々な問題について知識を得、多くの刺激を受けました。

11月25日アセンブリーアワーの学科別集会で報告会を実施し、学生たちは、各自で設定した沖縄に関するテーマについて、英語でプレゼンテーションを行いました。現地で吸収したことを掘り下げ、英語で伝えることで、より深い学びにつながる機会となりました。

また、11月25日～12月2日の期間と12月11日オープンキャンパスの日に、講堂横の廊下でポスター展示も実施しました。

(英文学科教授 Shawn BANASICK)



Field Study 沖縄 首里城にて

女性学インスティテュート／学長室共催講演会 「今を生きる若者へ～市長からのメッセージ～」

12月16日のアセンブリーアワーに、いとうまい芦屋市長と山崎晴恵宝塚市長をお迎えして対談講演会「今を生きる若者へ～市長からのメッセージ～」を講堂にて開催しました。

高岡女性学インスティテュートディレクターがファシリテーターを務め、登壇した学生2名より両市長へ学生時代の学びや仕事を進めるうえで軸とする考えなどについて質問を行いました。

講演の最後には今を生きる若者へのメッセージとして、いとう芦屋市長からは「現代社会では誰もが経験したことがない課題が多く、失敗が許されない風潮があるが、自身は若い頃にたくさんの失敗をした。芯を持っていれば失敗しても必ずやり直せるので失敗を恐れずに行動してほしい」、山崎宝塚市長からは「これまでの人生における選択は自分でしてきたと思っていたが、振り返ってみると自分が選択をしたときに必ず『それでいいよ』と言ってくれた人がそばにいた。人生の分岐点で誰かが手を差し伸べたらあなたはそこで必要とされている。その手を取って必要とされているところで力を発揮してほしい」とのメッセージが送られ講演会は盛会のうちに幕を閉じました。

本学では2022年4月に宝塚市と、2023年1月に芦屋市と包括連携協定を締結しました。これからも地域と連携して教育活動の充実に努めてまいります。

(学長室)



講演会後の記念写真

第13回絵本翻訳コンクール

2010年から始まった神戸女学院大学絵本翻訳コンクールも13回を数え、今年も全国の高校生から1,436件のエントリー、871件の作品応募をいただきました。

今年の課題絵本は Jenny Bornholdt & Sarah Wilkins の “The Longest Breakfast”。次々と個性的な登場人物が出てきてテンポよくすすんでいくお話で、明るく暖かな色づかいの絵が楽しいニュージーランドの絵本です。

10月12日今年度の受賞者を英文学科ウェブサイトにて発表。10月22日13:30～15:00に、オンラインにて第13回絵本翻訳コンクール「受賞者の集い」を行い、受賞者（優秀賞2名、優良賞3組5名、奨励賞3名）のうち9名が参加し、楽しい時間を過ごしました。

参加者は自己紹介を兼ねて好きなものや好きなことについて話し、何に気をつけて翻訳したのか、いちばん大変だったのはどんなことかをコメントしました。4名の審査員（卒業生・翻訳家：増田沙奈氏、本学英文学科通訳・翻訳プログラム担当：Jones 准教授、中村准教授、奥村准教授）からは、ひとつひとつの作品について評価した点の解説がありました。自分の作品のことだけでなく、他の受賞者の工夫や審査員からの講評をきくことで、新たな気づきにつながり、これからの励みになったのではないのでしょうか。

最後はスクリーン上で記念撮影をして、あっという間の90分が終了しました。

絵本翻訳コンクールの詳細、受賞者は以下のサイトでご覧いただけます。

https://e.kobe-c.ac.jp/translation_competition/

審査結果、講評&解説は以下のページでご覧いただけます。

<https://e.kobe-c.ac.jp/news/new/1124/>

（絵本翻訳コンクール事務局）



第13回絵本翻訳コンクール「受賞者の集い」

「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

本学の学びの道標として全教員により集積された「神戸女学院の100冊」の書評コンテストを、毎年秋に大学生対象で行っている。2022年度は、全学より3名の応募があり、慎重な審査の結果、1名が優秀賞、1名が佳作に選出された。

優秀賞の書評は、沼野充義氏の編著『世界は文学でできている』をとりあげている。「世界文学」を軸とした対談集として編纂されている本であり、対談の書評というものは非常に困難な作業であるが、個々の対談の概要をとりまとめ、個別のテーマについて深掘りをして論ずるという非常に難しい作業を、手際よく行っていた。単に話を後追いするのではなく、大学での学びを承けての独自の視点を提供するなど、意欲的な書評であった。

佳作の書評は、フェリックス・ポール・バイステック著『ケースワークの原則—援助関係を形成する技法 [新訳改訂版]』についてであった。評者もソーシャルワーカーを目指しており、この本について感じたわだかまり、腑に落ちた点、疑問について、率直に記した書評であった。

選には漏れたが、もう1編の書評も自身の学術的興味に即した素直な書評であり、好感が持てた。

活字離れが言われ出してから相当の年月が過ぎているが、本を読むという行為は、私たちに、情報過多のネット時代の中、情報から一歩引いて腰を落ち着けて他者の知見を熟考する貴重な機会を与えてくれるものであり、今後とも「100冊」のみならず、豊かな読書体験を学生が持つことを期待したい。

（副学長・教務部長 立石 浩一）



表彰式にて

神戸女学院大学音楽学部 定期演奏会2022 ～フォーレ レクイエム～

2022年11月29日兵庫県立芸術文化センターに於いて、2022年度定期演奏会が催された。

一曲目は、福島弘和作曲「吹奏楽のためのエッセイⅢ」

この“エッセイ”というのは、感想、思索、思想をまとめた散文で、自由な形式の随筆、随想という意味で、吹奏楽に対する自分の思いを綴った曲と解釈して欲しいという作曲家本人の言葉どおり、冒頭の表情豊かなクラリネットとサクソフォーンファンファーレ風の掛け合いからはじまり、テンポを変化させて展開していき、様々な楽器によって色彩豊かに奏でられた神戸女学院サウンドでオープニングにふさわしい一曲となった。

二曲目は、江原大介作曲「ネム—遙かな空への夢 (2022)」[世界初演]

作曲家曰く、このタイトルの“ネム”は“ねむの木”を意味し、花言葉である“歓喜や創造力”といったものを音楽に込めている。そして江原氏が幾度か来校し「空に希望を託し平和であること、未来ある夢を思い描く」というこの曲のイメージを学生に伝えてくれた甲斐があり、未来に向かって若い力が漲るような、そんな演奏であった。

三曲目は、八木澤教司作曲「不朽の大樹 2020」[改訂初演]

この作品は、これまでの二曲も指揮をした八木澤教司専任講師の作品で、“今を生き抜くことで後の時代につなげていくのだ”と固く決心して生まれた作品である。コロナ禍の今を生き抜き、打ち勝ち、不滅なる大きな木に、時代を乗り越える想いを託したという作曲者の想いのように、明るい未来を感じさせるような演奏で、ウィンドオーケストラの演奏を締めくくった。

休憩を挟んで、松浦修准教授指揮による、チャイコフスキー作曲「交響曲第6番 悲愴」が演奏された。

悲劇を予感させるような暗い雰囲気からの第一楽章から始まり、第二楽章の5拍子のワルツという、優雅でありながらも不安定な暗さと慰めのようなメロディーが交差し、スケルツォから行進曲へと力強く高揚していく第三楽章、そして第四楽章は冒頭から陰鬱な空気が支配し、「緩やかに、死者を悼むように悲哀を込めて」と指示されているように、葬送の音楽ともとれる終結部を奏で、消え入るように終曲した。

最後は、フォーレ作曲「レクイエム」[萩原英彦編 女性合唱版]

独唱は、卒業生の公募によるオーディションで選ばれたソプラノ金岡伶奈さん、バリトンは萩原寛明非常勤講師をソリストに迎え、指揮松浦修准教授、合唱指導は山口英樹非常勤講師で、フォーレの特徴として挙げられる“死の恐怖を表現せず、安息と平和を強調している”作品を、女性合唱編曲版で見事にまとめ上げた。

今回曲目解説を執筆いただいた津上智実名誉教授は最後にこのように綴っている。

「新型コロナの蔓延、戦争と食糧・エネルギー危機、異常気象による災害の多発等々、世界はますます厳しい状況を迎えている。奇しくも今年の定期演奏会の曲目は、チャイコフスキーもフォーレも、死と救いに関わる。死を考えることは、生を考えること。与えられた人生、限りある時間を、人としていかに生くべきか。今夜のプログラムは、そのように問いかけてくるように思われる」

(音楽学科長 松本 薫平)



フォーレ：レクイエム

第14回舞踊専攻卒業公演

去る12月15日から17日にかけて、本学エミリーブ
ラウン館舞踊専攻スタジオにて、第14回音楽学部音
楽学科舞踊専攻卒業公演が行われました。この度の
公演は、主任教授の島崎振付による3作品を披露し
ました。1作品目の Absence of story はクラシック
バレエテクニックとコンテンポラリーダンステク
ニックを使った作品で、これまでも幾度となく踊
られてきた作品ですが、このメンバーでご覧いただ
くのは前回の定期公演以来2度目となります。大き
な舞台で観るのとはまた違った発見があり、この度
の公演で再びご披露することができたことを嬉しく
思います。2作品目の「紡ぐ道」は、昨年の卒業生
のために創られた作品で、アフガニスタンで銃弾に
倒れた医師、中村哲さんのインタビューをまとめた
本、「私はゼロ弾きのゴージュ」からインスピレー
ションを受けたもので、苦難の中にありながら、懸
命に生きる女性たちの姿を描きながら、普段あまり
意識せずに平和の中で暮らしてる我々にとって、今
この瞬間にも世界のどこかで戦争に巻き込まれ苦し
んでいる人々がいることを思うことの大切さを舞踊
を通して、観客と共有するというコンセプト
で創られた作品でした。そして3作品目の新作、
「揺れる森の中で」では、多くのことを感じながら
日々を過ごす学生たちの姿を、揺れ動く森の中で起
こる自然現象と重ね合わせてみました。尽力いた
だきました全ての方々に感謝申し上げます。

(音楽学科教授 島崎 徹)



新作の「揺れる森の中で」より1枚

2023年度大学入試中間結果報告

本学では「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「クローバー推薦」等のいわゆる年内入試と、年明け入試として「一般選抜（前期A・B・C・D日程、後期日程）」ならびに「大学入学共通テストを利用する入試（前期日程、後期日程）」を設定しています。

2023年度入試では、総合文化学科および心理・行動科学科で「総合型選抜」を新たに開始し、多くの出願がありました。その後の「学校推薦型選抜」「一般選抜」等では前年度の出願実績を下回りました。

総合大学の易化、共学人気、実学志向など本学を取り巻く状況は予断を許しません。2024年度からの新学部開設とあわせて巻き返しを図るべく、入試の全体的な見直しについて準備を進めております。

引き続き、神戸女学院に連なる皆様のお力をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

2023年2月28日現在の出願状況（確定分のみ）

入試制度 年度	総合型	学校 推薦型 (公募制)	一般 前期				共通テスト利用
			A日程	B日程	C日程	D日程	前期
2021年度	33	454	685	318	181	110	302
2022年度	32	396	491	229	173	106	239
2023年度	89	323	334	123	90	41	121

（入学センター・広報室課長）



<派遣留学報告>

アサンブション大学

人生の中で最も濃いフィリピンでの4か月半

文学部 英文学科 3年生

私はフィリピンのアサンブション大学に約4か月半派遣留学していました。フィリピンでの留学を選んだ理由としては国際ボランティア活動経験から東南アジア文化に興味があったことや、英語能力を向上させたかったことなどが挙げられます。帰国した今、現地大学での生活を振り返ると、挑戦の毎日でした。コロナ禍でもコミュニティに積極的に参加し知り合いをつくり、英語を使う機会や現地文化に触れる機会を増やすよう尽力しました。履修科目数は多くなく時間にゆとりがあったので、コロナ禍でいただいた貴重な留学生生活をどう充実させるかを毎日考えていました。そんな留学生生活で得たものは無数にあります。例えば、フィリピンの食生活や国民性など文化面の知識であったり、タガログ語という全く知らない言語が飛び交う寮での生活環境を通して得た精神面の成長であったりと様々です。しかし、現地で最も懇意にしていた友人から帰国前日に大学記事向けにインタビューされたときに、フィリピンで学んだ最も大きな教訓は何かを聞かれ真っ先に思い浮かんだのは「人と人との繋がり」でした。現地での生活は本当に多くの人の助けがあって成り立っていたと感じます。アサンブション大学と聞いて一番に浮かぶのは常に明るく優しい友人たちや、寮母さんや大学職員の方々の顔です。私はフィリピンでの生活を通して人と人との繋がり大切さを学びました。この留学を通して一生の宝物を多く得ました。



アサンブション大学の正門から見える景色

アサンブション大学

充実したフィリピン留学

文学部 英文学科 3年生

私は、2022年8月から12月までの間、フィリピンのアサンブション大学に派遣留学をさせていただきました。大学ではコミュニケーション学部にも所属し、広告や広報、マーケティング、ASEANなど幅広い分野を学びました。現地の学生は授業で積極的に発言をし、それぞれのトピックに関して自分の意見をしっかりと持っていたためとても刺激を受けました。彼女たちの姿を見て、私も恥ずかしながら且つ間違いを恐れずに自分の意見を発信することに少しずつ慣れていきました。

初めは新しい環境に慣れることに苦労しましたが、寮の友人らや寮母さんをはじめ、周囲の方々が常に手厚くサポートをしてくださり楽しく充実した日々を過ごすことができました。毎日起こる新しい出来事に一喜一憂し、目の前のことを楽しみ乗り越えることに必死だったこと、気づけば帰国が近づき大きくなる別れの寂しさなど、留学期間では数えきれないほどの学びや気持ちの変化がありました。留学で得た知識や経験を通して感じたことは今後の人生の糧となり、自分の自信になると思います。これからも、留学での経験を無駄にせず、残りの大学生活を悔いなく有意義なものにしていきたいと思っています。

留学準備から留学終了後まで、常に様々な面で支えてくださった家族や国際交流センターの皆様、留学中も連絡を取りずっと応援してくれていた友人、すべての方々に心から感謝しております。本当にありがとうございました。

淑明女子大学

留学生生活を終えて

文学部 英文学科 3年生

私が留学を決めた理由は、高校生の時から学生の間に必ず留学をして、現地で言語を学び、直接海外の文化に触れたいという気持ちが強かったからです。また、留学先に韓国の大学を選んだ理由は、在学中に日本語、英語、韓国語を話すトリリンガルになるという目標を達成するためでした。淑明女子大学では、英語で開講されている授業が多く、留学生の受け入れ規模が大きいため、英語と韓国語を学ぶ環境に最適だと考えました。現地の授業では、どのクラスもかなりグローバルな環境で日本人が私一人だったこともあり。そのような環境で授業を受け、交流することに、初めは戸惑いましたが、自分の考えを英語や韓国語で伝えられた時は、今までにない達成感や喜びを感じることができました。上手く伝えられない時は、クラスメイトと一緒に調べてくれたり、親身になってサポートしてくれたおかげで、今まで苦手意識があった自ら発言することに対する恐怖心が無くなったと思います。また、コロナ禍で不安定な状況の中、留学の準備から帰国までを実行できたことが何よりも自分の自信に繋がりました。実際に現地に行ってみないと分からないことがたくさんあると感じたので、自分のやりたいことを行動に変える実行力をこれからも磨いていきたいです。最後になりましたが、今回の渡航にあたりご尽力いただきました国際交流センターの皆様感謝申し上げます。ありがとうございました。

<受入留学生報告>

5か月間の留学

淑明女子大学交換留学生

私が交換留学を決心したのは去年の1月です。交換留学の申し込みはその前の2月からだったので、かなり遅い決定でした。しかし、卒業する前にほかの国で勉強してみたかったです。そのため、今まで立てた卒業計画を崩してでも交換留学に挑みました。

そして9月15日、私は生まれて初めて日本の地を踏むことになりました。初めて迎える9月の関西はとてもしめじめして蒸し暑かったです。そして韓国で接した日本のアニメやドラマと違って、現実の日本人は早口で、使う言葉も学んだものと違う部分がありました。例えば、日本で会計するとき「勘定」をよく使うと習いましたが、実生活では「会計」の方を遥かに多く使いました。何よりも大変だったのは、頭の中にある言葉が口から滑らかに出て来ない時でした。

しかし、時間が経つにつれて次第にこの生活に溶け込み、コミュニケーションがある程度可能になってからは、体も心も楽になりました。些細な部分まで気遣ってくれる先生、日本に来てから出会った友人、学校の正門を出入りする度に挨拶してくれる警備員の方々、そして親切に対応してくれるお店のスタッフ。不慣れさを乗り越えて、生活に慣れるように皆さんが助けてくれました。そのおかげで、新しい経験と良い思い出をたくさん抱いて韓国に帰国することができて嬉しいです。5か月、短い期間でしたが、いつかまた日本に戻って生活しようと思います。今までありがとうございました。

かけがえのない四季を感じられました

徳成女子大学交換留学生

私はどんな国でもその国を全部感じるためには4つの季節を過ごすことが重要だと思います。そのため、私は1年間の交換留学を決めました。去年の4月から今年の1月まで滞在し、素敵な日本の四季を感じる事ができたと自信を持って言えます。

日本に来たばかりの春は、神戸女学院大学の桜が満開でした。私が住んでいるチェジュ島は韓国でも一番暖かいところなので、3月に桜がすべて散りますが、日本は4月にまだ桜が綺麗に咲いていて本当にびっくりしました。また、京都の嵐山に初めて行きました。そこで見た桜が私の人生の中で、一番美しい桜になりました。日本の夏は私にとって一番華やかな季節でした。七夕の時、留学生と神戸女学院大学の学生と浴衣を着て一緒にゲームをしたり、写真を撮ったり本当に楽しかったです。また、笹に願い事を書いた短冊を飾ったことも初めての経験でした。また、留学生の友人と浴衣を着て京都の祇園祭りに行ったことも忘れられない思い出になりました。

日本の秋で一番印象的だったことは神戸でフェリーに乗って見た花火でした。私はそれまで花火を見たことがありませんでしたが、実際に見た花火は本当にロマンチックで華々しいと思いました。また、私は一人で散歩をすることが好きです。一人で散歩しながら見た(大阪)万博記念公園の紅葉も忘れられない記憶になりました。

最後に日本の冬は温かい思い出ばかりでした。日本はイルミネーションが有名だということは知っていましたが、梅田駅から大阪中央公園に寄って本町駅まで歩きながら見た多彩なイルミネーションは映画の一場面のようなものでした。

日本で1年は短くて長い時間でしたが、神戸女学院大学の先生たち、国際交流センターの方たちとパディのおかげで人生にかけがえのない四季を感じることができました。私はこの幸せな思い出を持って韓国に帰ります。そして、もっと成長して生きていきたいです。1年間本当にありがとうございました。

一生忘れられない思い出

徳成女子大学交換留学生

私は大学1年生の時からずっと交換留学がしたかったです。でも、コロナ禍で国際交流が難しくなり、交換留学は何度も延期と取消になりました。希望が見えない状況だったので、諦めるか悩んだ時期も結構長かったです。去年、ついに交換留学の実施が決まり、諦めなくて本当によかったと心から思いました。実際に出国日が来た時は、海外で一人で住むことができるだろうかという不安ももちろんありました。昔から望んでいた留学生活でも、いいことばかりあるわけではないでしょう。滞在中、辛かったことや大変だったこともありましたが、それがあったからこそ私はもっと成長できたと思っています。

神戸女学院大学での半年間の思い出は一生忘れられないことだと感じています。ここに来てパディさんや他の学生さんと友人になったこと、様々な先生から学んだすべてのこと、日本に住みながら新しく経験したことなどを大切にしながら、これからも夢を叶えるために一歩ずつ進んでいきたいです。帰国後も一生懸命日本語を勉強して翻訳家になり、また日本に来て暮らしたいです。

今まで助けてくださった皆様には本当にありがたい気持ちでいっぱいです。半年があつという間に過ぎてしまって残念だと感じていますが、日本と韓国は近くいつでも来られるので、また日本に来る日を楽しみにしています。その時、機会があったらまたお会いしましょう。今まで色々本当にありがとうございました。

豊かな留学生活

広東外語外貿大学交換留学生

コロナ禍のため、そもそも数少ない留学チャンスは、さらに得難いものになりました。本来2021年3月に日本に行くはずでしたが、コロナ禍で、何度も延期されました。2022年3月ようやく行けるようになりましたが、卒業や就職のため一度留学を諦めかけました。でも国際交流センターの先生が何度も誘いの手を差し伸べてくださったおかげで、日本への旅が始まりました。今振り返ってみると、本当に日本に行ってよかったと思います。

日本語を5年間勉強しましたが、日本に行くのは初めてでした。空港に着いて荷物を取る時、スーツケースが見当たりませんでした。緊張しながらも、勇気を持って空港のスタッフに助けを求めました。上手ではないですが、長年勉強した日本語がようやく出番になり胸を躍らせました。その興奮は今でも覚えています。

日本に着いた時はちょうど桜の時期でした。隔離後、神戸女学院大学に向かいました。なんとという美しいキャンパスだろうか。桜吹雪を見て、まるで漫画の世界にいるようでした。心が癒され、移動の疲れもすっかりとれました。その時から携帯電話の中には、神戸女学院大学の写真でいっぱいです。

風景だけでなく、学校生活もとても楽しかったです。七夕パーティー、クリスマスパーティー、留学生歓迎会と送別会、山口小学校児童との交流会、寮の行事などがあり、仲がいい友人もでき、とても豊かな留学生生活を過ごすことができました。心から感謝しています。

サヨナラの意味——神戸女学院大学との絆

広東外語外貿大学交換留学生

「サヨナラに強くなれ、この出会いに意味がある。悲しみの先に続く、僕たちの未来」と、ユーチューブで出会ったこの「サヨナラの意味」という歌を聞いた時、神戸女学院大学で過ごした日々が目の前に浮かんできた。

駅まで迎えに来てくれる国際交流センターのスタッフの姿、留学生歓迎会で一緒に盛り上がったバディたちの笑顔、ジョギングする時に触れた四季折々のキャンパス風景、困った時にさりげなく声をかけてくれるクラスメートの優しさ、丁寧に論文を指導してくれる先生の親切さ、いつでも、どこでも感じられるきめ細やかな思いやり…たくさんの思い出が歌のメロディーと共に蘇ってくる。お別れの寂しい気持ちよりも、この素敵な神戸女学院大学との絆ができて良かったと思うようになった。

母国とは全く違う土地での生活は、習慣と考え方の違いで迷いや力の足りなさを感じることもあったが、共に歩む方々のおかげで無事に乗り越え、楽しく1年間を送ることができた。

また、岡田山祭などのイベントに参加し、ほかの国の留学生との交流のチャンスもあり、今までに出会ったことのない価値観、考え、文化をよりよく理解することができた。様々な異質性を受け入れる神戸女学院大学の豊かさと可能性をつくづく感じた。

この1年間で体験したことと、たくさんの方との間に築いた絆は、私の中に末長く残り、この先も道を歩く大きな力になると思っている。

〈神戸女学院大学の企画による2023年度夏期語学研修参加者募集〉

2023年度の夏期語学研修は、次の5プログラムを実施予定です。(詳細は4月作成予定の募集要項をご参照)。それぞれ4月下旬に募集説明会を実施しますが、日程は決定し次第、国際交流センター掲示板等で告知します。春期(2024年2～3月)にも語学研修を予定しています。詳細は国際交流センター(デフォレスト館1階)まで。

TEL: 0798-51-8579 Email: kokusai@mail.kobe-c.ac.jp

第11回 西オーストラリア大学(オーストラリア)

時期: 2023年8月～9月(5週間) 募集人数: 20人

西オーストラリア州のパースにある自然豊かなキャンパスで、約5週間、総合的に英語を学ぶ。ホームステイ。平日朝夕、食事つき。

第10回 ヨーク大学(カナダ)

時期: 2023年8月(3週間 あるいは 4週間) 募集人数: 20人

多文化都市トロントにあるカナダで3番目の規模を誇るヨーク大学にて、英語研修を受講する。現地学生との交流や学外活動も含む。大学寮。

第3回 ケンブリッジ大学(イギリス)

時期: 2023年8月～9月(3週間) 募集人数: 20人

ケンブリッジ大学ヒューズホールにて約3週間の英語研修を受講する。英語集中レッスン、ケンブリッジ大学生とのフィールドワークなど。ホームステイ。平日朝夕、食事つき。

第1回 南クイーンズランド大学(オーストラリア)〈フライトアテンダントコース〉

時期: 2023年8月～9月(4週間) 募集人数: 20人

研修前半2週間は南クイーンズランド大学、後半2週間は Aviation Australia において、航空業界で使用する英語を学び、客室乗務員の知識・スキル習得を目指す。航空機を使つての実務訓練も行う。ホームステイ。平日、朝昼夕食事付き。

第4回 昭和ボストンサマーセッション(アメリカ)

時期: 2023年8月～9月(4週間) 募集人数: 10人

米国マサチューセッツ州昭和女子大学ボストンキャンパスにおける昭和女子大・立教大など他大学の学生と約4週間の合同研修。ESLに加えてアメリカ文化や心理学など各自の希望するフォーカスグループ(専門分野)の講義・フィールドトリップに参加できる。大学寮。カフェテリアでの食事つき。

研究所活動報告

◇講演会

「心豊かな暮らしとは
—モデル富岡佳子さんの実践編—」

富岡 佳子 氏
(2022年10月28日開催)

◇助成・補助

◆出版助成 1件

1. “Im Prater blüh'n wieder die Bäume”
『プラターに再び花咲き』
音楽学科 辻井 淳 准教授
(2022年10月14日発行)

◆体育・芸術活動助成 1件

1. 「ピアノトリオで旅する ポヘミアの風
～佐々 由佳里 室内楽シリーズ vol.9～」
音楽学科 佐々 由佳里 教授
(2022年8月10日開催)

◆研究助成 5件

1. 疎外と共感：英米現代詩における動物の表象
英文学科 古村 敏明 教授
2. 兵庫を旅する ～音とかおりの視点から～
総合文化学科 古岡 俊之 教授
3. 血液細胞の分化におけるクロマチン制御分子
SATB1 の機能解析
環境・バイオサイエンス学科 佐藤 友亮 教授
4. An investigation of the settlement and social
integration of technical intern trainees from the
perspective of receiving communities
英文学科 奥村 キャサリン 准教授
5. A comparative sociolinguistic survey of
peripheral cultures with emphasis on Ainu
culture
英文学科 VAAGE Goran 准教授

◆地域貢献・活性化のための補助 2件

1. 地域における養育者支援の活性化
～PCIT & CARE 関西研究会の活動を通して～
心理・行動科学科 國吉 知子 教授
2. 安価な手作りウェルプレートを用いたマイクロ
スケール実験教材の開発と地域の児童・生徒に
対する授業実践
環境・バイオサイエンス学科 中川 徹夫 教授

◆専門部会研究発表会補助 7件

1. 音楽学科
音楽家の二刀流!
～クラリネットの魅力とプレイングマネージャー～
稲本 渡 専任講師
(2022年6月15日開催)
2. 英文学科
“Researching Shakespeare in East and
Southeast Asian Higher Education”
Sarah OLIVE 客員准教授
(2022年6月30日開催)
3. 環境・バイオサイエンス学科
「メタボロミクスって何？
～メタボロミクス研究の紹介～」
西海 信 准教授
(2022年7月4日開催)
4. 総合文化学科
「ランボーの詩人像—イエス像との関わりから」
塚島 真実 専任講師
(2022年7月13日開催)
5. 総合文化学科
「中国における環境政策の動向
—公衆参加の視点からの考察—」
傅 喆 准教授
(2022年11月24日開催)
6. 英文学科
“Leveraging research to support English
vocabulary learning”
Nathaniel CARNEY 教授
(2022年12月1日開催)
7. 音楽学科
教育現場に向けたレパトリー開発
八木澤 教司 専任講師
(2022年12月7日開催)

◆国際学会出張補助 1件

1. 英文学科
Pacific Ancient and Modern Language
Association, 119th Annual Conference
古村 敏明 教授
(2022年11月)

◇発行物

- 『論集』第69巻第1号（通巻第188号）2022年6月発行
『論集』第69巻第2号（通巻第189号）2022年12月発行
(研究所)

女性学インスティテュート活動報告

◇特別講演会

「女性が兵士になるということ」

国際ファッション専門職大学 田中 雅一 教授
(2022年6月10日開催)

◇女性学インスティテュート／学長室 共催 講演会

「今を生きる若者へ—市長からのメッセージ—
いとう まい 芦屋市長・山崎 晴恵 宝塚市長
(2022年12月16日開催)

◇定例研究会

『ジェンダーを科学する』
「健康科学におけるジェンダードイノベーションズ」
環境・バイオサイエンス学科 佐藤 友亮 教授

「動物としての私たち」
環境・バイオサイエンス学科 高橋 大輔 教授

「生理前の不快な症状に悩んでませんか？」
環境・バイオサイエンス学科 高岡 素子 教授
(2022年6月19日開催)

◇合同研究会 (オンライン開催)

共催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
「1950年代日本の女子プロレスから考える
冷戦文化とジェンダー」
英文学科 瀬戸 智子 准教授

「マルクスを読む女たち
—19世紀末から20世紀初頭のイギリス小説における労働者階級女性の表象」
奈良女子大学 市川 千恵子 教授
(2023年3月8日開催)

◇助成・補助

◆研究助成 2件

1. ドキュメンタリー映像によるジェンダー教育の可能性—『トークバック 沈黙を破る』を事例に—
英文学科 南出 和余 准教授
2. 軍隊のジェンダー平等化問題に対する人々の意識と議論を促進する教育方法の検討
心理・行動科学科 矢野 円郁 准教授

◇学生懸賞論文 (第24回女性学インスティテュート賞)

- ・応募総数 2編
- ・最優秀賞 該当なし
- ・優秀賞 2編

〈優秀賞〉

- ・2021年3月心理・行動科学科卒業生
「現代の日本人は男尊女卑的な考えを持っているのか—選択的夫婦別姓制度に対する考えとの関係—」
- ・2021年3月総合文化学科卒業生
「ジェンダー化されない主体の誕生
—村田沙耶香『コンビニ人間』論—」

◇授業

- | | |
|----------|-------------------|
| Cu130ab | 「女性学 (I)」 a、b |
| Cu131ab | 「女性学 (II)」 a、b |
| Cu236ab | 「ジェンダー学」 a、b |
| ID100(1) | 「プロジェクト：神戸女学院を創る」 |

◇発行物

『女性学評論』第37号 (2023年3月発行)

(女性学インスティテュート)

<私の研究>

がく
楽にもがく

崎谷 明弘



人間にしかできない演奏、を探し続けている。

資本主義社会では大衆に広く受け入れられるものが求められる。古典芸術を標榜するクラシック音楽もその例外ではなく、古くは超絶技巧の披露に始まり、耳馴染みのある選曲、コンクール競争でのストーリー性、ルッキズム等々。こうした商業主義的妥協は曲がりなりにもクラシック音楽の範疇で行われてきたので、その真価を問われても「クラシックのみが特別」「クラシックを演奏すること、それ即ち芸術」と言い張り続けてきたのである。

ところがYouTuber かていん こと角野隼斗の登場は、そのような業界の欺瞞を吹き飛ばすものであった。クラシック畑の典型的教育を受けながらも東京大学に進学。音響や自動編曲の研究をしながら数々のコンクールに入賞。クラシックのみならずポピュラーの大舞台にも立ち続け、20代にして日本で最も著名で成功したピアニストとなった。角野のカリスマの前には、ベートーヴェンもショパンもひれ伏すしかないだろう。少なくともこの国においては。芸術の名分のもと為される事（作品や演奏）に縋り付いてきたクラシック界であったが、ついに為す人の価値が上回ったのである。

再現芸術を文字通り「再現する」行為が芸術とみなされる時代は過去のものとなった。ただ、訴求力のある単純でキャッチーなものを産み出し続けるのは今後もヒトの役割なのだろうか。経験からの学習や処理はAIが圧倒的に優位。商業主義上の最適解は、いずれ演奏の「実行者」がAIのパペットとなることではないか。

だからこそヒトにしかできない演奏には価値がある。解釈のタブーを排除し、想像もつかない音楽を創りだすのだ。光明はまだ見えないが、音楽は所詮、音の配列。まずは大胆なテンポ設定とその変化、拍感の妙を突き詰めたい。

(音楽学科専任講師)

<ゼミ紹介>

税関講座で国際関係を学ぶ

北川 将之

総合文化学科の北川将之です。私の専門分野は国際関係論です。担当する専攻ゼミでは国際関係についての理解を深めることを目的として、文献リサーチ・発表・討論を行っています。たとえば、近年はコロナ禍において国境を越える人の移動は制限されてきましたが、モノの移動は非常に活発に行われています。特に2022年1月1日から「地域的な包括的経済連携(RCEP)協定」が発効したことで、日本と中国・韓国の間で関税が大幅に引き下げられ、東アジアは本格的な自由貿易の時代を迎えることになりました。しかし、関税の仕組みは複雑化しており、学生の自主的なりサーチだけでは十分な理解は得られません。そこで、神戸税関が毎年実施している大学での「税関講座」の仕組みを活用して、関税の専門家にレクチャーをしていただきました。日本に輸入される加工製品(電子製品や加工食品など)には、複数の国の工場を経ていることが多く、その製品がどの国からの輸入品であるかを判別するための詳細なルールが策定されています。それが原産地規則と呼ばれるもので、税関講座では、具体例を通してひとつのモノが複数の国での生産工程を経て日本に辿り着いているプロセスと関税の仕組みを学びました。このように専攻ゼミでは身近な出来事から国際関係を読み解くことも大切にしています。

(総合文化学科教授)



税関講座の様子

学生の活動紹介

(コンクール受賞、学会発表など)

日本語学会 2022年度春季大会

(2022年5月14日 オンライン開催 口頭発表)

「NP1つまりNP2」の「つまり」の機能

—同格名詞句との対照から—

大学院 文学研究科 2年生 (比較文化学専攻)

中国話者のための日本語教育研究会 (第52回)

(2022年9月10日 ハイブリッド開催)

対面会場：東京都立大学南大沢キャンパス 口頭発表)

中国語を母語とする日本語学習者による

「～てしまう」の使用実態と意味・機能

—母語話者との比較から—

大学院 文学研究科 1年生 (比較文化学専攻)

第24回日本演奏家コンクール ピアノ部門

大学生の部 特別賞 (2022年9月27日)

音楽学部 音楽学科 4年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

第21回宝塚ベガ学生ピアノコンクール 大学生部門

奨励賞 (2022年10月2日)

音楽学部 音楽学科 2年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

第23回大阪国際音楽コンクール

Section I 歌曲コース Age-U 第1位 (2位なし)

(2022年10月9日)

大学院 音楽研究科 修士課程 2年生

[音楽芸術表現専攻 (声楽)]

第23回大阪国際音楽コンクール

Section I オペラコース Age-U エスポアール賞

(2022年10月9日)

大学院 音楽研究科 修士課程 2年生

[音楽芸術表現専攻 (声楽)]

第39回 JPTA ピアノ・オーディション

関西地区大会 E部門 (年齢制限なし) 優秀賞

(2022年11月12日)

音楽学部 音楽学科 3年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

第36回摂津音楽祭リトルカメラリアコンクール 本選
奨励賞 (2022年11月13日)

音楽学部 音楽学科 3年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

第16回ベートン音楽コンクール

自由曲コース ピアノ部門 大学・院生Aの部

第2位 (2022年12月24日)

音楽学部 音楽学科 4年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

日本国際音楽コンペティション 管楽器部門

大学生の部 第1位、姫路市長賞

(2022年12月26日)

音楽学部 音楽学科 1年生 [器楽専攻 (フルート)]

第2回芦屋音楽コンクール ピアノ部門

大学生・大学院生 第3位 (2023年1月21日)

音楽学部 音楽学科 4年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

第2回芦屋音楽コンクール 声楽部門

大学生・大学院生 奨励賞 (2023年1月22日)

音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第2回芦屋音楽コンクール 声楽部門

大学生・大学院生 第3位 (2023年1月22日)

音楽学部 音楽学科 2年生 (声楽専攻)

第13回日本バッハコンクール

動画大会本選 (大阪) 大学・大学院部門 金賞

(2023年1月29日)

音楽学部 音楽学科 4年生 [器楽専攻 (ピアノ)]

たからづか市民環境フォーラム2022

口頭発表 (2022年12月3日)

「宝塚市西谷地区に生息する野生メダカの

遺伝子型分布と遺伝的攪乱について」

環境・バイオサイエンス学科 3年生 3名

第4回ひょうごユース eco フォーラム

口頭及びポスター発表 (2023年1月14日)

「地球温暖化防止活動学生推進員としての

活動紹介」

環境・バイオサイエンス学科 4年生 2名

日本遊戯療法学会 第27回大会口頭発表

(2022年7月17日 於：新潟大学)

「ネグレクトにより脆弱な内的世界を抱えた
小学生女兒とのプレイセラピー」

大学院 人間科学研究科 博士課程 4年生
同 教授 須藤 春佳

日本箱庭療法学会 第35回大会口頭発表

(2022年10月16日 於：鳴門教育大学)

「寄るべない世界を抱えられる体験を積み重ねた
男児との児童養護施設でのプレイセラピー」

大学院 人間科学研究科 博士課程 4年生
同 教授 須藤 春佳

日本心理臨床学会 第41回大会ポスター発表

(2022年9月2日～25日オンライン開催)

研究題目「いじめ傍観場面での援助抑制理由の検討
—傍観者の類型と当事者の人間関係—」

大学院 人間科学研究科 心理相談室研修生
同 教授 須藤 春佳

研究題目「いじめ関係者への共感と状況判断・

被害者援助行動との関連」

大学院 人間科学研究科 心理相談室研修生
同 教授 須藤 春佳

日本心理臨床学会 第41回大会 ポスター発表

(2022年9月2日～25日 オンライン開催)

「女子大学生が抱く虐待可能性不安と
その背景要因の検討」

大学院 人間科学研究科 心理相談室研修生
同 教授 國吉 知子

日本心理臨床学会 第41回大会 ポスター発表

(2022年9月2日～25日 オンライン開催)

「ペット動物に対して特別な情愛を抱く尺度と
パーソナリティとの関連」

大学院 人間科学研究科 心理相談室研修生
同 教授 國吉 知子

日本遊戯療法学会 第21回研修会

口頭発表 (2023年3月21日)

「ダイナミックな運動をする中で話し始めた
自閉症小学生男児とのプレイセラピー」

大学院 人間科学研究科 研究生

第76回日本栄養・食糧学会大会

(2022年6月1日 於：武庫川大学)

「製麴過程の温度条件が米麴の特性に与える影響」

大学院 人間科学研究科 修士課程 2年生
同 教授 高岡 素子

第61回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

(2022年10月14日 於：滋賀県立大学)

「ヒハツ抽出物摂取による冷水負荷後の
皮膚表面温度に及ぼす影響」

環境・バイオサイエンス学科 4年生 3名
丸善製薬・総合研究所 山名 美江、三宅 康夫
環境・バイオサイエンス学科 教授 高岡 素子

調理科学会 2022年度大会

(2022年9月2～3日 於：兵庫県立大学)

「Lactobacillus senmaizukei 株を利用した
発酵レッドビートペーストの製造」

大学院 人間科学研究科 前期課程 1年生
環境・バイオサイエンス学科 卒業生 1名
同 教授 高岡 素子

中高部報告

英語スピーチコンテストを振り返って

中学部 3年生

私は、第30回薫英杯 Advanced の部に出場しました。3分以内の英語自由作文のスピーチでした。

私はこのコンテストから得たものが2つあります。

1つ目は、英語の発音の向上です。8月からずっと、英語科の2人の先生がスピーチ練習に付き合ってください、何度も何度も繰り返し発音を教えてくださいました。赤ペンで指摘された発音を書いていると、原稿が真っ赤になりました。英語とはなんて難しいものなのかと思い、くじけそうな時もありましたが、それより楽しいという感情が強く、最後まで練習を頑張りました。コンテスト以降、英語の発音を意識するようになり、授業では、先生の発音を今まで以上にしっかりと聞くようになりました。

2つ目は、学校外で審査員や観客の前にスピーチをするという貴重な経験をできたことです。初めてのスピーチコンテストだったので、イメージがわからず緊張しました。堂々と発表する他の出場者を見ては、凄いと感じるばかりでした。自分が、人前でのように緊張するタイプなのか、どれだけ緊張するのか、をよく知ることのできた経験でした。この経験は、次に繋がる重要なことだと思います。

一人でも多くの方が、英語スピーチコンテストに興味を持ち、挑戦してくださると嬉しいです。

最後に、スピーチコンテストの練習に何度も付き合ってくださいました先生方、応援してくれた友人に感謝します。

inochi WAKAZO Forum 2022
inochi Gakusei Innovator's Program

2022年度 inochi Gakusei Innovator's Program において、S1の生徒4名のチームが関西1位、全国優秀賞を獲得しました。

inochi WAKAZO project は、若者の力でヘルスケアの課題解決をすることを目的とする事業で、その一つが inochi Gakusei Innovator's Program です。対象は中高生と高専生で、毎年異なるテーマが設定されます。2022年度のテーマは「心不全パンデミック」でした。

1次選考は「友達」について、自分のたちのチームの強みなどを作文で提出し、200チームから60チーム程度に絞られます。選考通過チームは心不全について自分たちで調べて課題を見つけ、解決法も考えて運営の大学生にプレゼンテーションし、フィードバックをもらいます。2次選考では、この内容を改善し、再度運営大学生にプレゼンテーションし、質疑応答を受けます。ここで60チームから20チームに絞られます。ここから最終選考まで毎週日曜日に心不全の知識や、プレゼンテーションの方法などの教育プログラムを受けます。

関西・関東・北陸・九州からの1チームと敗者復活の2チームで、循環器内科の医師やこのプロジェクトに投資を考えている実業家にプレゼンテーションを行います。

生徒たちは、学校での学習や行事などとの両立をしながら Zoomなどを駆使して会議を重ね、自ら学会や病院、薬局などに電話をかけたり、学内の生徒たちにアンケートをとって情報を集め、よく練られた内容の発表を行い、優秀な成績を修めました。

(中高部教諭)

音楽コンクールに参加して

高等学部 1年生

私は本年度、第16回セシリア国際音楽コンクール中学生部門C第3位、第40回兵庫県高等学校独奏独唱コンクール奨励賞、第23回大阪国際音楽コンクールアマチュア部門スーペリアコース第3位を受賞しました。受賞が分かった時は驚きと嬉しさで胸がいっぱいになりました。

私は中学2年生の夏に今ご指導してくださっている先生との出会いがあり、ピアノに対する向き合い方が変わり音楽の魅力を感じるようになりました。練習する過程で、より良く曲を表現するために、音色の変化、音の輝きや深さを教えてもらえたことで1音1音を大切にするように心掛けています。ピアノコンクールは本番が一度きりなので普段の成果が出せなく落ち込むときもありますが、コンクールでもらえる講評を読んで、その度に自分の課題を見つけて次へつなげられるようにしています。普段あまり時間がなく数曲しか練習できていないのですが、少しずつ色々な曲に触れて、曲の中にある作曲者の思いも感じられるように表現して弾けるようになればと思います。曲を仕上げる過程で音楽作りに励んだ経験が、今後の糧となるようにこれからも精進してまいります。

これからも学校生活と音楽を両立していきたいです。いつもご指導してくださっている先生に心より感謝いたします。

校内読書感想文コンクールについて

今年度も夏休み中、J2とS2は宿題で、その他の学年は自由参加で校内読書感想文コンクールを行った。先生方から推薦された優秀作を、図書委員の先生方が審査して、以下のように入選作を決定した。(() 内は、書名。) 2月8日の礼拝時に、校内コンクールの表彰式を行い、中学部2年の生徒と高等学部2年の生徒が自作の朗読をした。

また、校内選考で決定された優秀作は第50回兵庫県私立学校読書感想文コンクールへ応募し、6名が特選(☆印)に入賞した。さらに、第68回青少年読書感想文兵庫県コンクールにおいて、高等学部2年の生徒が毎日新聞社賞、高等学部2年の生徒が兵庫県図書館協議会賞を受賞した。

(中高部図書室司書教諭)

久々の讃美歌コンクール

2022年12月16日にJ讃美歌コンクール・もみの木の集いが開催されました。この讃美歌コンクールを行うかどうかについて教員・生徒間で長い議論が行われました。また、いざ讃美歌コンクールを行うとなっても、練習には大幅な制限がかかりました。教室で集まって練習してはいけません。Jは編曲はなし、1番のみの演奏。練習場所と練習時間は決められた日時のみ。Jの生徒は讃美歌コンクールを体験していませんので、過去の映像を見せてイメージをつかんでもらったりしました。例年のもみの木の時の讃美歌コンクールは講堂のフロアで各クラスがその場で歌うのですが、今年は舞台にあがって歌う形にして観客との距離を取りました。歌うクラスの出入りの動線など生徒が苦心して考えてくれました。さらにもみの木の集いに出演する有志団体を入れるため他の団体の時間を融通してもらい、感染対策のため全体の時間を短くしました。関わる全員納得できるように、こうした調整を生徒たちが忍耐強く行いました。初めてのことはばかりで不安の中始まった讃美歌コンクール・もみの木の集いでしたが、結果は大いに盛り上がり、時間もびつたりと終わって観客も演者も裏方もみんな満足する、まれに見る大成功を収めました。今回は、例年以上にたくさんの方と話をし、助けていただいた会でした。生徒たちも例年以上に大きな成長の糧を得たことと思います。

(中高部教諭)

S聖なる集い

12月15日に2022年度の「聖なる集い」が講堂で開催されました。「聖なる集い」は、「讃美歌コンクール」と「クラブ等による発表」から構成されます。今年は3年ぶりに讃美歌コンクールを開催できる可能性が出てきて、安全に開催するための条件を整理するところから準備が始まりました。礼拝で讃美歌を歌うことがほとんどできないなか、自由な練習はまだできないと判断し、割り当てられた広い場所でのみ練習することや、コーラスは2声までに限定することなどが条件となりました。例年とは異なる形式となりましたが、讃美歌コンクールが開催できることに生徒は大変喜んでいました。

発表はSの7つのクラブ(軽音楽部、ESS部、コーラス部、ギター部、ブラスバンド部、ダンス部、演劇研究部。出演順)が行いました。プロジェクションマッピングを用いた演出や、コーラス部とギター部のコラボレーションなどもあり、「聖なる集い」にふさわしいひとときとなりました。

S文化部にとっては、幹部がS3からS2に交代して初めての行事、加えてSで初めての讃美歌コンクールとなり、緊張の連続でした。S3文化部が気にかけてくれたり、J文化部との連絡が密だったり、文化部の縦のつながりが多く見られた準備期間でした。お世話になりました多くの先生方、職員の方々、ありがとうございました。

讃美歌コンクールはS3Bが優勝しました。S3がクラスごとの参加を決めてくださったことにも感謝します。

(S文化部顧問)

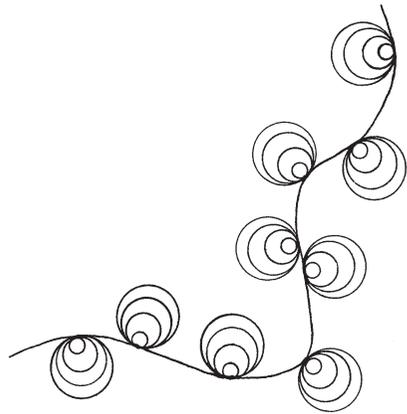
キャリアガイダンス講演会『弁理士って何?』

12月15日、講堂にて『弁理士って何?』というタイトルで日本弁理士会副会長の市川ルミ先生に講演していただきました。

講演は、最初に自己紹介から始まりました。市川先生は、1992年神戸女学院高等学部を卒業され、1996年早稲田大学理工学部電気工学科卒業後、外資系コンピュータ会社等においてコンサルティング業務に従事されました。2001年に弁理士登録。2002年に梶・須原特許事務所（現弁理士法人 ATEN）に入所し、2022年より代表に就任されています。また、プライベートでは、3人の子ども（19歳娘、16歳息子、14歳息子）のお母様として忙しい日々を送られています。講演は、“『弁理士』という職業を知っていますか？”という問いかけを通して、理系の方や法律系の方が国際的に活躍できる『弁理士』という仕事の内容と、『弁理士』のキャリアパスについての紹介でした。

その後、コムホールで中学3年生が市川先生に直接質問する機会を与えられました。生徒たちが書いてくれたアンケートを見ると、「名前しか聞いたことのなかった『弁理士』という仕事について詳しく知ることができてよかったです。弁理士についてもっと詳しく調べてみようと思います。」「うまくいかないこともたくさんあって、そんな中でもあきらめずに立ち向かっている先生はすごいなと思いました。」「大学に入ってからいろいろな分岐点がありそうなので、少しでも自分の選択できる範囲を広くするために、たくさん勉強しようと思いました。」、と生徒たちが興味を持って話を聞いていたことが分かります。

(教務課長)



<先輩からのメッセージ>

広がる知的好奇心を大切に

成田 奈緒子
(中高部卒業)

私は、中学部の時からアメリカに憧れ、いつか研究者としてアメリカに行く！と夢を抱いていました。一方、本が好きで好きで、いつか自分の本を出したい、大好きなエラリー・クイーンのような本格ミステリーを書く！と夢を抱いていました。さらに、中学3年の時に観た「Grease」に心を奪われ、いつかミュージカルに出たい！と夢を抱いていました。

その後神戸大学医学部に進学し、小児科医、研究者とキャリアを積み、思わぬ出会いによりアメリカセントルイスのワシントン大学に留学できました。帰国後は関東で小児精神心理疾患の臨床と研究を続け、子どもを知るためには福祉も知らなければと発達障害者支援センターや児童相談所でも働き、教育にも興味を募って、今は教育学部で教鞭もっています。

そんな唯一無二の経験から独自の発達・子育て論を展開し、今や30冊以上の書籍を出させていただいています。神戸女学院の自由な6年間は、私の多方面に広がる知的好奇心を阻害しませんでした。これが今の土台を作ってくれたのだと感謝しています。あとは、著作にミステリーが加われば、私の中学時代の夢はすべて叶います。楽しみです。

……えっ?!ミュージカルはって？

実は4年前から市民劇団で歌って踊ってミュージカルに出演しているんですよ！そう、神戸女学院生には「いわゆる」常識は通用しないのです。皆さんも自由な好奇心の芽を多方面に伸ばして人生をどこまでも楽しんでくださいね。



神戸大学同級生の山中伸弥君との対談本も出ました。

学内行事は宝の山

アオガチヨウ
(画家/イラストレーター・中高部卒業)

こんにちは。動物やモンスターを題材に作品を発表しつつ、ゲームや小説挿絵などのエンタメ業界にイラストを提供しています。先日、光栄にも拙作「鷲獅子(グリフォン)の天秤」が卒業生の活動として図書室の蔵書の一員に迎えられました。ありがとうございます。

私が業界を目指したきっかけは、讚美歌コンクールや文化祭などの為に絵を描いたことでした。それまでは黙々と自分のために描いていたのですが、必要に応じて絵を描き、それが他者に伝わる喜びを知りました。

さらに私の所属は家庭科部だったのですが、愛校バザー用に制作した妙な縫いぐるみが予想に反して買われていったことも、「誰かに届けばそれで良い」という、今の信念に繋がっていると思っています。

このように、神戸女学院が行う様々なイベントは多くのことに気づかせてくれる最高の機会でした。また、卒業後は各々別の分野に行き社会人になることを考えると、いろんな価値観を持った人間と屈託なく過ごし自分を遠慮なく表現できる時間として、神戸女学院中高部にいた6年は本当に貴重だったと感じています。反省点があるとすれば、絵に熱中してからは定期テストにまで落書きをしていたことでしょうか。すみません。そこは程々にしても良かったかもしれませんが、そんな生徒でも受け入れ認めてくれる空間が神戸女学院にはありました。

沢山の豊かな学内行事が、皆様にも素敵な出会いと発見をもたらしますように。



画集と作業机

マロニエ賞報告

マロニエ賞とは、兵庫県下の知事所轄の私立学校に在籍する園児・児童・生徒及び教職員等に対し、スポーツ、文化等の各分野で顕著な成績をあげた人や団体に対し、知事より表彰される賞です。

2022年度は、12月23日に兵庫県公館にて、本校からは4名の生徒が受賞しました。県全体では、11団体と47個人が受賞しました。

高校3年の生徒は、第14回日本地学オリンピック国内大会本線で金賞および日本地球惑星科学連合賞(女子1位)を受賞し、第15回国際地学オリンピック、イタリア大会では3部門で銅メダルとなり、文部科学大臣表彰を受賞しました。

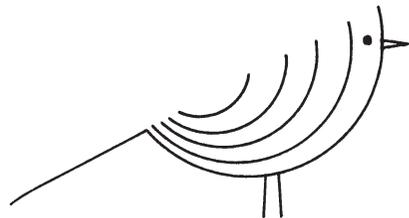
高校3年の生徒は、第11回ヨーロッパ女子数学オリンピックハンガリー大会にて銅メダルを受賞しました。彼女は、中1より数学オリンピックに挑戦してきました。昨年度も、ヨーロッパ女子数学オリンピックジョージア大会に参加し銅メダルを受賞しています。

高校2年の生徒は、第1回レディース選手権大会兼第45回スポーツチャンバラ世界選手権大会において、楯小太刀レディースの部で優勝(世界チャンピオン)となりました。ベルギーへの留学中のため授賞式には参加できませんでした。

高校1年の生徒は、第23回大阪国際音楽コンクールアマチュア部門スーパーリアコースにおいて第3位を受賞しました。この賞以外にも第40回兵庫県校と応学校独唱独奏コンクールピアノ部門奨励賞、第16回セシリア国際音楽コンクールでも第3位を受賞しています。

それぞれによく努力をし、神戸女学院の代表として賞を得ることができたことをうれしく誇りに感じます。おめでとう。そしてありがとう。

(中高部部長)



第57回中高部長賞 第38回文化・スポーツ賞

中高部では、学内のクラブ活動で多大な成果をあげたクラブ・団体に中高部長賞を、学内外を問わず多大な活躍をした生徒に文化・スポーツ賞を授与しています。

中高部長賞とは、中学部と高等学部に分けて、すべてのクラブの1年間の活動資料（クラブノートの内容や活動状況、またクラブ部長生徒や顧問教員による自己評価）に基づき、中高部教員で組織された選考委員会で選考されたクラブに授与する賞です。高等学部では昨年度より1学期の終業日に、中学部では2学期の終業日に授与しています。受賞クラブには表彰状と盾、副賞が贈呈されました。

第57回中高部長賞

S演劇研究部、Sコーラス部、Sバスケットボール部
Jテニス部、Jコーラス部、Jバスケットボール部

文化・スポーツ賞とは、前年度の1月末からの1年間を通し、中高部の代表として各大会等に参加し、西宮・阪神地区で1位、また兵庫県・関西・近畿・全国、世界で3位以内の賞を獲得した中から、中高部長や中高部教員で組織された選考委員会で選考された個人や団体に授与する賞です。43名の生徒に文化賞を、18名の生徒にスポーツ賞を授与しました。今年度は複数の賞が選考対象となった生徒も多く、校内外を問わない活躍が多くありました。

第38回文化賞（43名）

- ・第38回読売書法展入選
- ・第27回全日本高校・大学生書道展優秀賞
- ・第38回成田山全国競書大会成田山賞
- ・第14回日本地学オリンピック本選日本地球惑星科学連合賞、金賞
- ・第15回国際地学オリンピック・オンライン大会銅メダル（DMT、ESP、NTFIの3部門）
- ・第11回ヨーロッパ女子数学オリンピック（EGMO2021）ハンガリー大会銅メダル
- ・第9回高校生ビジネスプラン・グランプリ ベスト100

- ・第9回高校生ビジネスプラン・グランプリセミファイナリスト
- ・令和3年度阪神ESSユニオンプレゼンテーションコンテスト 優勝
- ・令和4年度阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト優勝
- ・私学の書展特選さくや筆本舗賞
- ・私学の書展特選墨運堂賞
- ・第6回神戸松蔭女子学院大学高校生書道コンクール準大賞
- ・第6回神戸松蔭女子学院大学高校生書道コンクール神戸新聞賞
- ・2022年夏のオンライン高校生模擬裁判交流会優勝
- ・inochi WAKAZO Forum 2022優秀賞
- ・WPFチャリティーエッセイコンテスト2022佳作
- ・第23回大阪国際音楽コンクールアマチュア部門 スーペリアコース第3位
- ・税の書道西宮・宝塚租税教育推進協議会賞
- ・税の書道西宮納税貯蓄組合連合会会長賞
- ・中学生「税についての作文」コンクール 一般財団法人 大蔵財務協会理事長賞
- ・中学生「税についての作文」コンクール 兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞
- ・中学生「税についての作文」コンクール 西宮税務署長賞
- ・第30回薫英杯中学校女子英語スピーチコンテスト アドバンスドの部優秀賞

第38回スポーツ賞（18名）

- ・第9回兵庫県中学校冬季テニス大会団体戦第2位
- ・第66回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技 女子団体戦第2位
- ・2022年度兵庫県私立中学校テニス大会団体戦優勝
- ・第19回兵庫県中学校秋季テニス大会第2位

中高部長賞、文化・スポーツ賞は、生徒のクラブ活動や学校生活での活性化を願い、生徒の努力を称えることが目的です。受賞者の皆さん、おめでとうございます。来年度もたくさんの受賞者が選出されることを願っております。

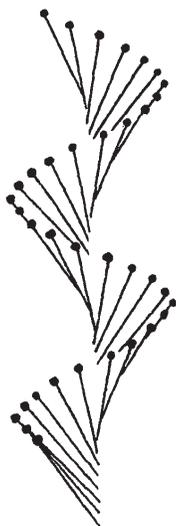
（中高部保健体育科教諭）

2023年度中学部入学試験結果報告

日程：2023年1月14日(土)・16日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	手続完了者数
135	254	250	159	148

(中高部事務室)



<課外活動紹介>

[クラブ]

J ESS部

J ESS 部の活動は、講堂で行う大きな舞台が年に3回（J1 歓迎会、文化祭、J3 送別会）と、代替わりをして初めて行う部内発表会があります。以前はキャンパス見学会で発表会を行っていましたが、近年のコロナ禍で形式が変わり、J2 が中心になって初めて行う発表会の形になりました。引退したJ3 や S ESS の部員、部員の友人たちが見に来てくれます。過去の作品から台本を選び、自分たちに合わせて改訂し、練習を重ねてそれぞれの舞台に臨みます。現在は J2 が10名、J1 が13名で活動しています。

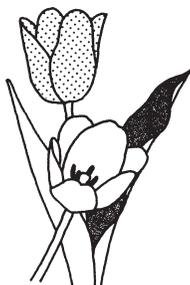
(J ESS 部顧問)

[クラブ]

Jバスケットボール部

Jバスケットボール部は、4月の西宮市民体育大会、6月末から7月にかけての西宮市中学校総合体育大会、9月の西宮市中学校新人大会、1月末から2月にかけての西宮市中学校選手権大会と、年4回ある公式戦に向けて、週5日練習に取り組んでいます。ほとんどの部員が初心者で、入部当初はドリブルをつくのも一苦勞ですが、バスケットボールがご専門の先生に基礎から丁寧にご指導いただき、少しずつ上達していています。今後も諦めずにこつこつと練習に励んでほしいと願っています。

(Jバスケットボール部顧問)



[クラブ]

S手芸部

部 長

S手芸部はS1：15名、J3：1名の合計16名で活動しています。UVレジン・ビーズ・編み物・ミシン等でそれぞれの好きなものを作っています。活動場所は被服室2です。文化祭は水引細工体験の展示をし、バザーでは、手芸作品の販売をしました。アットホームで、みんなと色々な話をしながら手芸ができる楽しい部活です。また、面白い部員たちも魅力の一つです。手芸が得意な子もそうでない人も手芸を楽しめる部活だと思います。興味のある方は、いつでも遊びに来てください！

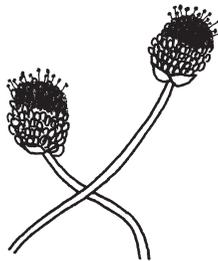
[クラブ]

Sダンス部

高等学部 1年生

私たちは、バザー、文化祭、聖なる集いの年3回の舞台に向けて活動しています。現在は、ジャズ、キュート、ヒップホップ、ガールズの4つのジャンルがあり、それぞれジャンル長を中心に練習を進めています。曲選びから構成、衣装、振り付けまで全て自分たちで考えるため、大変なことも多いですが、部員皆で一体となって一から舞台を作り上げるので、本番が終わった後には本当に大きな達成感を得ることができます。

部員同士の仲が良く、楽しく練習ができるのもSダンス部の魅力の1つだと思います。



〈学院日誌〉

1月10日(火)	中高部始業日	2月17日(金)	教授会
1月11日(水)	中高部教員会議	2月22日(水)	理事会 中高部教員会議
1月14日(土)、16日(月)	中学部入学試験	3月1日(水)	高等学部卒業式
1月14日(土)~15日(日)	大学入学共通テスト	3月6日(月)	教授会
1月20日(金)	教授会	3月7日(火)	文学部・人間科学部一般選抜 (後期日程)
1月25日(水)	理事会 中高部教員会議	3月8日(水)	中高部教員会議
1月27日(金)	文学部・人間科学部一般選抜 (前期A日程)	3月17日(金)	大学卒業式・大学院修士学位記授 与式・博士学位記授与式 中高部教員会議
1月27日(金)~28日(土)	音楽学部一般選抜 (前期A日程)	3月19日(日)	オープンキャンパス
1月28日(土)	文学部・人間科学部一般選抜 (前期B日程)	3月20日(月)	中学部卒業式、終業式
2月8日(水)	中高部教員会議	3月22日(水)	理事会 評議員会 臨時理事会
2月14日(火)	文学部・人間科学部一般選抜 (前期C・D日程)		

目 次

デフォレスト先生の召天50周年を覚えて……	1
KCC だより ……	3
2023年度年間標語 ……	4
クリスマス報告 ……	4
テレビドラマ「名建築で昼食を」 ……	6
小林季子記念東京寄宿舍クローバーハウス開所式 ……	6
史料室の窓・学生寮の青春 ……	10
事務室探訪 ……	12
大学報告	
大学改革状況について ……	13
音楽学部の新専攻開設について ……	14
2022年度 公認心理師試験の合格率が3年連続で100% ……	14
アサンプション大学学生との合同授業 (英文 奥村ゼミ) ……	15
音楽学部ウインドオーケストラ 2枚目のCDレコーディング ……	15
Field Study 沖縄 ……	16
女性学インスティテュート／学長室共催講演会 「今を生きる若者へ～市長からのメッセージ～」 ……	16
第13回絵本翻訳コンクール ……	17
「神戸女学院の100冊」書評コンテスト ……	17
神戸女学院大学音楽学部 定期演奏会2022 ～フォーレ レクイエム～ ……	18
第14回舞踊専攻卒業公演 ……	19
2023年度大学入試中間結果報告 ……	42

派遣留学報告 ……	43
受入留学生報告 ……	44
神戸女学院大学の企画による2023年度夏期語学研修参加者募集 ……	47
研究所活動報告 ……	48
女性学インスティテュート活動報告 ……	49
私の研究 ……	50
ゼミ紹介 ……	50
学生の活動紹介 ……	51
中高部報告	
英語スピーチコンテストを振り返って ……	53
inochi WAKAZO Forum 2022 inochi Gakusei Innovator's Program ……	53
音楽コンクールに参加して ……	54
校内読書感想文コンクールについて ……	54
久々の讚美歌コンクール ……	56
S聖なる集い ……	56
キャリアガイダンス講演会『弁理士って何?』 ……	57
先輩からのメッセージ ……	58
マロニエ賞報告 ……	59
第57回中高部長賞、第38回文化・スポーツ賞 ……	60
2023年度中学部入学試験結果報告 ……	61
課外活動紹介 ……	62
学院日誌 ……	64

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

7, 11, 20, 33, 35, 40, 41